

はじめに

- 横浜市都市整備局では、福祉の視点からバスへの関心を啓発し、利用を促進するため「交通バリアフリー教室」を行っています。庄戸小学校では、神奈川中央交通株式会社と連携して実施しました。
- 庄戸小学校は、京浜東北・根岸線港南台駅から約3.5km離れたところに立地しており、周辺は住宅地となっています。学校の近くには「庄戸」のバス停があります。

1 交通バリアフリー教室の全体概要

- 交通バリアフリー教室は、横浜市都市整備局が担当する
  - ①「バスのバリアフリーに関する座学」とともに、神奈川中央交通の協力のもとバス車両を用いて②「高齢者体験及び車いすの利用・介助体験」をクラスごとに行いました。
  - ①の座学においては、**バスやタクシーのバリアフリーの機能や導入台数などの現状や、モビリティマネジメントの大切さ等**、様々な“知識”を伝えました。
  - ②の体験授業においては、バス車両を用いて、バスのバリアフリーの機能を見たり、体に重りをつけてのバスの乗降や車いすを利用した解除体験を行いました。

■交通バリアフリー教室について

【日時】 令和3年11月16日(火)  
3～4校時

【対象】 横浜市立庄戸小学校  
5年生 1～2組(46名)

【内容】

- ①バスのバリアフリーに関する座学
- ②高齢者体験及び車いすの利用・介助体験  
→クラスごとに分かれて実施

学校近くのバス停



車いす体験の様子



バリアフリー体験の様子



2 「バスのバリアフリーに関する座学」の内容

- 座学では、『もっと知ってほしい「バス」のこと』と題して、車いすの方もお年寄りも、「誰もが使いやすい」を目指して取り組んできたバスのバリアフリーや、同じ公共交通機関であるタクシーのバリアフリーの車両について説明しました。
- 近くに神奈中バスの営業所があることから、バスが身近な乗り物と感じている児童も多い一方で、実際はクルマを利用することが多いようでした。
- バリアフリーに加え、バスの利用者が減少や公共交通の取り巻く現状を伝え、「このまま利用者が減ってしまうとバスが将来、無くなってしまう」可能性もあることを、マンガリーフレットを用いて伝えました。
- 今後は「便利なクルマに頼りすぎず、バスで行ける所はバスで行くこと」を日頃から心掛け、家族や友人などと少しずつ実践してほしいことを伝え、授業を終えました。

おわりに

- 庄戸小学校の5年生は「誰でも暮らしやすい庄戸のまち」として福祉について学んでいます。車いすの体験をし、学びを深めてもらうことができました。
- 交通バリアフリー教室を経験して、**車いすで移動することや足が上がらない状態でのバス乗降の大変さ**を感じた児童がたくさんいました。
- バリアフリーの体験の後は神奈中バスの運転士さんからバリアフリーに限らず、バスの様々なことを学びました。
- 今回のバリアフリー教室により、子どもたちがバスへの関心をもち、**バスを上手に使い、またバスで困っている人をサポートする**きっかけとなってほしいと思います。

■座学に用いた教材

①説明用パワーポイント:

もっと知ってほしい「バス」のこと



②小学生向けマンガリーフレット



座学の様子